華麗なる図書館利用者のための

クールリブラー講座

Cool Librar

カジのひねもすハイスクール純情派

文／カジ

サバイバル日本史脱落時の恐怖

補習中、問題に答えられないと退室が余儀なくされるサバイバル日本史。出題される問題はハイレベルなものが多く、最終的に生き残った生徒が数人となる場合もあった。正解できず退室となった生徒は、教科書などを抱え肩を落とし去っていくのだが、追い打ちをかけるかのごとくデモニッシュからもれなく罵声が浴びせられるのだ。「ヴァカ！」「アホかお前は！」なんていうのは優しい方。時には「○○○○より○○○だな」とか「○○○○○○○○」とか「○○○○○○○○○○○○○○○○」とか「○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○」などと言われることも。ちなみにカジは「お前はboat peopleか！」と罵られたことがあるが、意味がわからなかったので「可能性はありますね」と適当に答えておいた。罵声ですら偏差値高めだ。

恐怖の補習 サバイバル日本史②

【前回のあらすじ】

勉強嫌いのカジに襲い掛かるカジ高の補習攻勢。補習を回避するため、実に月に20回も歯医者に通うというバレバレのフェイクをかましていた生粋のデンタルボーイカジであったが、担任デモニッシュ林の『直接歯の状況を確かめる』という暴挙に根負けし、土曜日午後の補習に参加することに。ただし、デモニッシュの行う補習はただの補習ではなく、特殊なスタイルの補習なのであった。

デモニッシュ林。その暴力的な言葉にすべての生徒が恐怖するタカ派教師。日本史担当。45歳（推定）。ただ怖いだけでなく、教育熱心で大学受験に向け高いレベルの内容を生徒に教えられる日本史のスペシャリストであった。そのおかげで我がカジ高は、全体ではどうってことない模擬試験の成績が、日本史だけは常に県内トップを獲得していた。これはもちろん彼の熱心な指導の産物でもあったが、デモニッシュに恐怖する生徒たちが「日本史だけ鬼のように勉強する」ということが大きく起因していたと思われる。ただ、理由はどうあれ、それはなかなかのことではあった。

さて、そんなデモニッシュ林が行う恐怖の補習、それが『サバイバル日本史』だ。何がサバイバルかというと、補習中に先生から次々と問題を出されるのだが、指名された生徒は必ず正解しなければならない。正解できなければ、その生徒はそこで終了。教室から出て行かなければならないのである。つまり、先生からの問題を生き残りを賭けて答え続けなければならない、まさにサバイバルな補習なのである。

この日は文系5クラスのうち、2クラス、約80人ほどの参加者。生徒が皆、当てられるのではないかとビクビクし、教室全体には異様な空気が張り詰める。その空気感にカジも若干飲まれ気味であった。

いよいよサバイバル日本史開幕。

「それでは前回の続きから…」

デモニッシュの発声とともに補習が始まった。更に高まる現場の緊張感。

「明治10年、西郷隆盛が起こした反乱。これ答えて…」

サバイバル第1問はそれほど難しくない問題。果たして誰が指名されるのか…

「カジ、お前答えろ！」

ご意見・ご感想はこちらへ
coollibrar@hotmail.co.jp